

平成26年度障害者支援施設青松苑事業報告書

青松苑は、障害者施策の変遷や制度改革の中で着実に信頼される施設づくりに取り組み、多機能型事業所として、生活介護、就労継続支援B型、施設入所の各事業の福祉サービスを提供しています。施設をとりまく制度及び環境の変化に、柔軟性と機動性をもって組織体制、事務処理、事業内容等の見直しを行いながら運営基盤の整備を図ってまいりました。福祉サービスの提供にあたっては、利用者の状態やニーズに対応し、人権と人間性を尊重し、支援を必要とする利用者に良質で安心・信頼される専門的サービスを提供することを目的として、「社会福祉法人けやきの村事業計画」に基づき、それぞれの事業及び分野で次の事業を実施しました。

1. 実施した障害福祉サービス事業

(1) 生活介護事業

利用者のニーズに応じて自立した日常生活又は社会生活を健康で明るく、楽しく、安心して営むことができるよう、入浴、排泄及び食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供等各種の日中プログラム及び日常生活能力の維持・向上を目的とした支援を実施し、適切かつ効果的に行いました。

(2) 就労継続支援B型事業

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供し、生産活動その他の活動の機会の提供をとおして、知識及び能力の向上のために必要な訓練及びその他の便宜を適切かつ効果的に行いました。

(3) 施設入所支援事業

利用者が健康で安心して生活ができるよう住環境の改善や整備を図りながら、日中活動と併せて、夜間等において心地よい場を提供し、身辺面を中心とした日常生活の支援と入浴、排泄又は食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行いました。

2. 運営管理

(1) 利用者本位の支援の提供を基本とするとともに、施設環境の保全に努め、施設利用者が生活の場として快適に過ごせるように下記の整備事業を行いました。

[環境整備のため物品購入]

- ①ギャジベッド2台購入
- ②パソコンネットワーク及びシステムの更新

[設備等の修繕]

- ①厨房配膳棚修繕工事
- ②職員浴室ガス給湯器交換修理
- ③給排水設備、井戸揚水ポンプ等の修理

[寄付物品]

- ①二槽式洗濯機（寄贈者：松下電器産業労働組合）

(2) 利用者の人権を尊重し、虐待の防止に向けた具体的な取り組みと体制整備に努めるとともに、職員倫理綱領、職員行動指針の遵守と利用者の人権擁護に努めました。

(3) 利用者の立場に立った施設支援を提供するものとする。また、できる限り居宅に近い環境で、地域

や家庭との結びつきを重視した支援を行い、市町村のほか保健医療や福祉サービス事業者との連携に努めました。

- (4) 利用者一人ひとりについて適切なアセスメントを行い、利用者のニーズに基づいた利用者の生活の質(QOL)を高めることに重点を置く個別支援計画を策定し、エンパワメントの理念を尊重した利用者本位のサービスの提供に努めました。

会議名	回数	ケース件数
個別支援計画策定会議	31回開催	73ケース

- (5) 安心・安全に快適な生活が送れるよう、アクシデントやインシデントの要因分析と対策の実施と危機管理体制を強化し、サービス提供過程における事故の未然防止に努めました。

インシデントレポート (ヒヤリ・ハット)	37件	転倒：17件、服薬：4件 外傷：4件、その他：12件
事故報告 ※通院一度の比較的軽易なけが	3件	手首打撲通院、顔面打撲通院 歯茎裂傷歯科往診

- (6) 苦情解決委員会において福祉サービスに対する苦情や意見・要望を幅広く汲み上げ、サービスの改善を図るために苦情解決体制の推進を図りました。

	受付 件数	処理 件数	苦情内容					
			職員の対応	サービス	情報提供	損害・事故	権利侵害	その他
生活介護	0	0	-	-	-	-	-	-
就労B型	0	0	-	-	-	-	-	-

- (7) 地域社会の理解と協力を得られる施設づくりをめざし、地区の展覧会、障害者記念事業への参加、地域開放行事において地域住民との交流、連携を深めるとともに、ボランティア(7団体)を積極的に受け入れ、社会、地域との関係の維持・促進に努めました。

- (8) 地域連携やネットワークへ参加協力するとともに、大規模災害発生時における物資や人的支援及び福祉避難所としての使命と役割を担うことができるよう必要な備品等の整備と非常食等の備蓄を行いました。

3. 諸 会 議

障害者支援施設青松苑における会議・委員会機構図により、それぞれの会議及び委員会を随時または定期的で開催し、適切な施設運営並びに適切なサービスの提供に反映させることに努めました。

会議名	回数	会議内容
職員全体会議	5回	行事推進、バスハイク、利用希望者実態調査報告 相談支援、利用者処遇
マネジメント会議	4回	事業報告・決算等、法人監査対応 今後の業務執行、利用者確保 職員の健康管理、就業時間等
給食委員会	毎月	利用者の要望、献立・行事食等の検討
防火対策委員会	毎月	避難訓練、防災対策等の企画検討
リスクマネジメント委員会	毎月	リスクマネジメント推進、マニュアル等の検討
生活支援課会議	4回	ケース検討、行事推進、支援計画、入所希望者
その他の会議	随時	施設運営に必要な会議を随時開催

4. 生活支援

利用者のニーズを認識し、利用者の意向にそった個別支援を行うため内容の充実を図り、集団生活、余暇活動、生産活動など様々な社会資源を活用して、利用者が地域生活力を身につけ、充実した生活が送れるよう支援しました。

- ①利用者の意思と尊厳を保持し、人権やプライバシーに配慮した対応・支援を行い、利用者のニーズを反映した支援サービスの提供に努めました。
- ②利用者及び家族の意向、ニーズの把握を行い個別支援計画を策定し、それに基づくサービスの提供と再評価を行い、より良いサービスが提供できるように努めました。
- ③利用者の意向に添い、自立した社会生活がおくれるように支援する。また高齢化する利用者の健康を維持するために、毎日の健康活動の充実と継続に努めました。
- ④障害の重度化・高齢化によりADLが低下している利用者について、個々の身体的・精神的状況に応じた支援サービスに努めました。
- ⑤グループワーク等を活用し、個別性・意思の尊重、リーダーの育成を積極的に推進する。また、利用者が苑生会活動や施設の行事計画立案に参加するなどにより、自立性・社会性を基に利用者主動となる支援に努めました。
- ⑥日中活動としてのレクリエーション・生産活動・余暇活動の充実を図り、自発的に参加する機会を提供するとともに地域社会に関われるように支援しました。

日帰りバスハイク	郡山市（ふれあい科学館）	3回実施	19名参加
〃	茂庭ダム・福島イオン	2回実施	12名参加
介護外出	買物、外出支援	10回実施	10名参加
生産活動	社会経済活動参加	月平均12.9日参加	21名参加
アニマルセラピー	動物とのふれあい	年3回実施	延49名参加
余暇活動	余暇活動支援	ゲーム、音楽鑑賞	随時実施
創作活動	週3回活動日	自由活動	平均5名参加

- ⑦利用者からの相談や苦情については迅速かつ適切な対応を心がけ、相談しやすい雰囲気や相談の場を提供し、相談支援の質を高めました。
- ⑧防火管理上の安全を図るため、電気器具等の使用上における注意事項の遵守を徹底させるとともに、地震などの災害に備え日頃からの点検に努めました。
- ⑨地域社会の情報を提供し、社会資源を有効に活用することにより、生活支援の拡大を図りました。
- ⑩館内を全面禁煙とし、受動喫煙による健康被害の防止に努めました。
- ⑪個人情報の取扱い及び守秘義務について十分配慮した支援に努めました。

5. 健康管理

- (1) 利用者の健康維持のため、個々の障害程度や健康状態を把握し、定期検診を実施するとともに、嘱託医師及び関係医療機関等との連絡を密にし、疾病の予防、早期発見・治療に努めました。

胸部レントゲン検査	9月11日	36名
心電図・尿検査・血液検査	7月30日	36名
血液検査・尿検査	3月3日	36名

- (2) 利用者自身が健康の自己管理をできるような認識を持たせること、又、健康に必要な知識・判断力を身に付けさせるよう個別及び集団指導を行いました。
- (3) 高齢化・重度化に伴い、生活習慣病や合併症の予防に努め、積極的な食生活・健康相談等の助

言・指導を行いました。

(4) 利用者の健康保持のため、環境整備・衛生管理に努めました。

(5) 利用者の定期健康管理を次のとおり実施しました。

体 重 測 定	毎月実施	BMI 値 未実施	8%
		18.5 (やせ)	8%
		18.5~25 未満 (ふつう)	39%
		25~30 未満 (肥満 1)	32%
		30~35 未満 (肥満 2)	11%
		35~40 未満 (肥満 3)	0%
	40~50 未満 (肥満 4)	0%	
嘱託医の診察	月2回実施		
インフルエンザ予防接種	11月18日	36名実施	

(6) 歯科衛生士による歯みがきボランティア等を活用して、口腔内の衛生状態、嚥下、咀嚼等の口腔機能の改善を図りました。

歯みがき指導・口腔ケア	10回実施	延73名
-------------	-------	------

(7) 感染症予防対策に努めました。

- ①インフルエンザ、ノロウイルスの発症及び蔓延防止の対策のマニュアルに基づくインフルエンザワクチン接種、うがい・手洗いの実施しました
- ②利用者の健康状態を把握し、健康管理（睡眠・栄養）の指導を徹底しました
- ③利用者の健康保持のため、衛生管理と環境の整備に努めました
- ④インフルエンザ等の感染症予防対策を徹底し、発症・感染を予防することができました

(8) 利用者の心身の安定を図るため、ストレスや不安などの精神的な負担が緩和できるよう全職員で支援しました。

6. 給 食

給食は、利用者の楽しみにしていることのひとつであり、健康管理上もっとも大切なこととして、安全でおいしい食事を提供することに努めました。

(1) 栄養スクリーニングにより個々の健康状態を把握し、栄養マネジメント会議において、関連多職種協同で栄養ケア計画を作成して、アセスメント、モニタリングの実施により個々の栄養管理を行うとともに、必要に応じて栄養相談を行いました。

栄養マネジメント会議	13回開催
------------	-------

(2) 献立は、十分な栄養と変化に富んだ内容とし、且つ調理にあたっては、利用者の嗜好や身体的条件による咀嚼や食事動作の障害を十分に配慮しました。

(3) 給食委員会を毎月開催し、利用者の希望等を献立に反映させるとともに、嗜好調査を年1回以上実施し、利用者のニーズに合った食事を提供できるよう心掛けるよう努めました。

(4) 治療食については、献立、調理において対応するとともに、利用者個人に自覚を促し、栄養に関する支援を行いました。

(5) 献立には行事食並びに旬のものを取り入れて季節感を持たせ、盛り付けや味付けを工夫するなど変化のあるものを提供するように努めました。

(6) 利用者の要望に基づき、選択メニューやバイキング形式を積極的に取り入れ、利用者を楽しい食事を提供しました。

- (7) 食品の保管には十分に注意し、常に調理室の整理・整頓・清潔を心がけるとともに、保健所等の指導のもと食中毒の予防に万全を期すよう努めました。
- (8) 調理に使用する食器・冷蔵庫・器具類の点検と管理を徹底しました。
- (9) 給食業務の取り組み。

嗜好調査の実施	1月23日～2月6日
給食委員会の開催	毎月1回実施
選択メニューの実施	10回実施（鍋物、バイキング等）
治療食の実施	糖尿病食：2名 腎臓病食：1名 高脂血症食：2名 塩分制限：8名
刻み食の実施	4名（咀嚼機能が低下している方）
ブレンダー食の実施	1名（嚥下機能障害の著しい方）

7. 就 労 支 援（生産活動）

- (1) 利用者が作業を通して社会経済活動に参加し、喜びと生き甲斐を感じることができる働く場としての機能を有するとともに、就労に必要な知識及び能力の向上・維持を図ることに努めました。作業種目については、年齢や健康面に配慮して、利用者個々の能力や障害程度に応じて選定し、作業時間や作業量が負担とならないよう配慮し、次の重点目標を定め就労支援を実施しました。
- ①協力企業（9社）と連携し、地域の実情や景気の動向を把握し、受注の安定確保に努めました。
 - ②信頼される品質管理と効率よい作業工程の管理に努め、納期を厳守することに努めました。
 - ③作業の開拓を常に心がけ利用者の個々の能力に対応できる幅の広い作業の確保に努めました。
 - ④不良品が発生した場合、速やかに要因除去の対策を講じました。
 - ⑤安全対策、不測の事態、バリアフリーに対応した働く場としての環境作りに努めました。
 - ⑥工賃向上の目標値を設定するとともに、生産性向上を図るための改善に取り組みました。

3月より目標工賃達成指導員を配置し、工賃向上計画に掲げる目標の達成に向けた取り組みをさらに強化しました。

	平成 25 年度	平成 26 年度
工賃引き上げ計画目標工賃	20,000 円	21,000 円
平均工賃額（月額）	29,762 円	24,808 円
目標達成率	149%	118%
福島県就労 B 型月額平均	12,880 円	11,337 円

- ⑦働きやすい事業所の環境作りに努めました。
- (2) 委託加工部門の作業は次のとおりでした。

①ヘルメット加工

ヘルメットのおごバンド、RA バンドの組み立て加工は、人体の安全を守るための規格に沿った作業工程であることを理解し、作業指示書による作業を徹底し、品質の確保と作業工程の効率化に努めました。

②ハーネス加工

作業標準・作業指示書による作業の進め方を徹底し、品質の向上と納期の厳守に努めるとともに材料管理・一次検査等すべての工程を行える人材育成を図りました。

③簡易作業（肩パッド、割箸、その他スポット作業）

作業効率、納期、工賃目標などにとらわれない作業種目とし、生産活動プログラムを整備し、

利用者個々の能力、生産性を生かして作業を進めるとともに、年齢・体力・健康面に配慮し、多様なニーズに対応しながら生産活動の機会を提供するように努めました。

事業収入	4,919,085 円	受託企業：9社
利用者工賃（B型）	2,580,000 円	平均月額：24,808 円
〃（生活介護）	1,470,000 円	平均月額：6,125 円
経費	653,379 円	燃料費、消耗品、租税公課、その他の経費

(3) 就労現場等による実習受入状況

大笹生養護学校	高等部3年	1名
福島県立盲学校	高等部3年	1名
福島県立聾学校	高等部3年	1名

8. 非常災害対策

(1) 年2回の消防設備の法定点検と、スプリンクラーの点検、非常口、建物の定期的な自主点検に加え、利用者の使用している電気器具の点検ならびに、事故防止のための建物の巡視を日常的に実施し、事故発生の絶無と事故防止の徹底を図りました。

(2) 火災・地震・水害等の非常災害時には、青松苑消防計画に基づき、利用者、職員が迅速かつ適切な避難行動がとれるよう訓練の充実を図るとともに、法人内施設、地域消防団、地域の防災協力者の方々の協力を要請している緊急連絡体制が、有事の際、速やかにかつ有効に機能するよう訓練の徹底を図りました。

(3) 主な訓練等を次のとおり実施しました。

訓練内容	回数	備考
避難訓練	毎月	毎月実施
総合避難訓練	年1回	消防署立会いのもとで実施
夜間想定防火管理検証	年1回	夜間想定マニュアルにより消防署立会いのもとで実施
地震・水害想定避難訓練	年1回	地震・水害を想定した避難訓練の実施
地域総合防災訓練	年1回	防災対策協力者懇談会と避難訓練を消防署立会いのもとで実施
法人内施設合同通報訓練	年1回	法人内4施設合同の通報訓練実施
防火査察	年1回	飯坂消防署による査察
消防設備法定点検	年2回	業者委託により実施
消防設備自主点検	毎月	防火管理者により実施
防災指導・教育	年1回	消防署による火災等に関する講話の実施

9. 職員研修

(1) 研修計画書及び青松苑職場研修実施要綱に基づき、職員を各種研修会（Off-JT）に積極的に参加させ、施設内においては必要事項の研修会（OJT）を適時実施し情報の共有を図りました。また、福祉事業従事者としての職業観に立って、専門知識の習得と実務体験の積み重ねを通し、自己研鑽しながら資質の向上に努めました。併せて、法人内研修会に参加するとともに施設内研修会も開催し、研修結果報告や重要な情報の伝達と周知を行いました。

(2) 喀痰吸引等研修

生活介護事業所において、たんの吸引及び経管栄養の医行為についての体制整備は不可欠な

ことから、複数の職員が基本研修、実地研修を受講し対応できる体制の構築を図りました。
 (3) 専門的な知識・技術向上のために下記のとおり研修会に参加し、人材育成と資質の向上に努めました。

法人主催研修	新任職員研修	1回	1名
	普通救命講習会	2回	3名
外部研修	福島県社会福祉協議会主催	4回	4名
	関係協議会等研修会	5回	5名
	喀痰吸引（不特定）	0回	0名
	喀痰吸引（特定）	1回	3名

□青松苑の現況

①生活介護事業所

実施項目	区分	定員数	25年度末 利用者数	26年度末 利用者数	達成率
利用者の確保	入所	30	29	27	93%
	通所		1	1	

②就労継続支援 B 型事業所

実施項目	区分	定員数	25年度末 利用者数	26年度末 利用者数	達成率
利用者の確保	入所	10	5	6	90%
	通所		2	3	

③施設入所支援事業所

実施項目	区分	定員数	25年度末 利用者数	26年度末 利用者数	達成率
利用者の確保	入所	40	34	33	83%